

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つむぎ吉備中央 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和6年10月11日		～ 令和6年11月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和6年10月24日		～ 10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年11月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階に応じたきめ細やかな個別支援や小集団活動支援の実施をしている。 面白いアイデアが出せる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数のアセスメントツールを活用している。 こどもの気付きをよく話をしている。 子どもたちが活動に意欲的に参加できるように、子どもの興味関心に沿った教材の工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もがわかるような、より具体的な支援計画の作成に取り組む。 子どもの興味関心を知るために、保護者と積極的に会話をし、また職員間の情報共有をより行う。
2	療育を相談できる機会や場がある	<ul style="list-style-type: none"> 諏訪利明先生の療育巡回の機会がある。 理事長の巡回指導を必要なタイミングで受け取ることができる。 毎週支援会議を実施して支援の共有化を図る。 法人の学習会で事例検討ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行き詰まった時は、自分たちから積極的に相談をしていく。 相手にわかりやすく相談ごとを伝えるスキルを各々が獲得する。
3	こども園に訪問することができ、集団の中での子どもの様子を見ることができ、担任の先生と協働的に支援することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの通っている子ども園に訪問支援を行い、子どもたちの成長や課題を確認しながら日頃の療育に生かすことができる。 先生方との情報共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの行動を障害特性の視点を持って話ができるようにする。 園の先生たちにより信頼していただけるように自分たちの療育やコミュニケーションスキルを身に付ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学を見据えた年長プログラムの未実施	今年度クラス編成ができておらず、就学に向けての「年長ならでは」のアプローチができにくい。	<ul style="list-style-type: none"> 次年度年長クラスを設定する。 他事業所の見学実施。 1年生の訪問支援で1年生に求められるスキルについて情報を入手し、プログラムに生かす。
2	職員間のコミュニケーションを高める状況作りの見直し	<ul style="list-style-type: none"> 自分のデスクで食事をするため、仕事と休憩の境目がお互いに理解しにくい。 自分のデスクで会議をすることで、目の前のパソコンや書類が目が行きがちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事の部屋を確保し、休憩と仕事のメリハリをつけて、話がしやすい状況を作る。 支援会議は会議デスクで実施し、会議の内容に集中しやすくする。必要な情報はスクリーンで確認する。
3	保護者とのコミュニケーションの積み重ねができにくい場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> メールでのやり取りで、対話ができているととらえてしまいがちである。 家庭や園などのお子さんの様子やエピソードを聞く量が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ※直接対話の機会を意図的に作る。 定期的に相談機関が実施する面談についてはマストに参加。参加した職員は必ず連絡会で共有する。 集金などの機会には情報共有の時間を設定し、相談室で会話をし、そしてご家庭の様子を聞き取る。 親子サポート教室への参加を呼びかける